

## 第4章 アンケート結果の概要

障害者手帳所持者および親子教室等を利用している児童の保護者を対象として、アンケートを実施し、計画策定のための基礎資料としました。本章では、その概要を掲載しています。

### 1 調査・分析にあたって

- 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- 回答率(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しました。
- 属性不詳が次表のとおりあるため、全体の回答数と属性別の回答数の合計が一致しない場合があります。

区 分	障がい者調査	障がい児調査
年 齢	12	1
性 別	2	-
手帳の種類	17	-
身体障がいの種類	9	

- 本調査における障がい名の略称は下表のとおりとしました。ただし、身体障がい重複している人は、最も重い障がいを記入していただいています。

障がい名	略 称
聴覚障がい、平衡機能障がい、音声、言語、そしゃく機能障がい	聴覚・言語障がい
肢体不自由（上肢のみ）	上肢障がい
肢体不自由（下肢のみ）	下肢障がい
肢体不自由（上肢・下肢両方、体幹を含む）	体幹障がい

## 2 アンケート結果の抜粋

### (1) 収入の種類

収入の種類を年齢別にみると、身体障がい者の18～39歳は「給与・賃金」、40～64歳は「障害年金」の割合が高くなっています。知的障がい者の18～39歳は「給与・賃金」、40～64歳は「障害年金」が高くなっています。40～64歳は、「通所施設などの作業所の工賃」の割合も50%以上と高くなっています。精神障がい者は「障害年金」が高くなっています。

図表4-1 収入の種類（障がいの種類別・性・年齢別、複数回答）

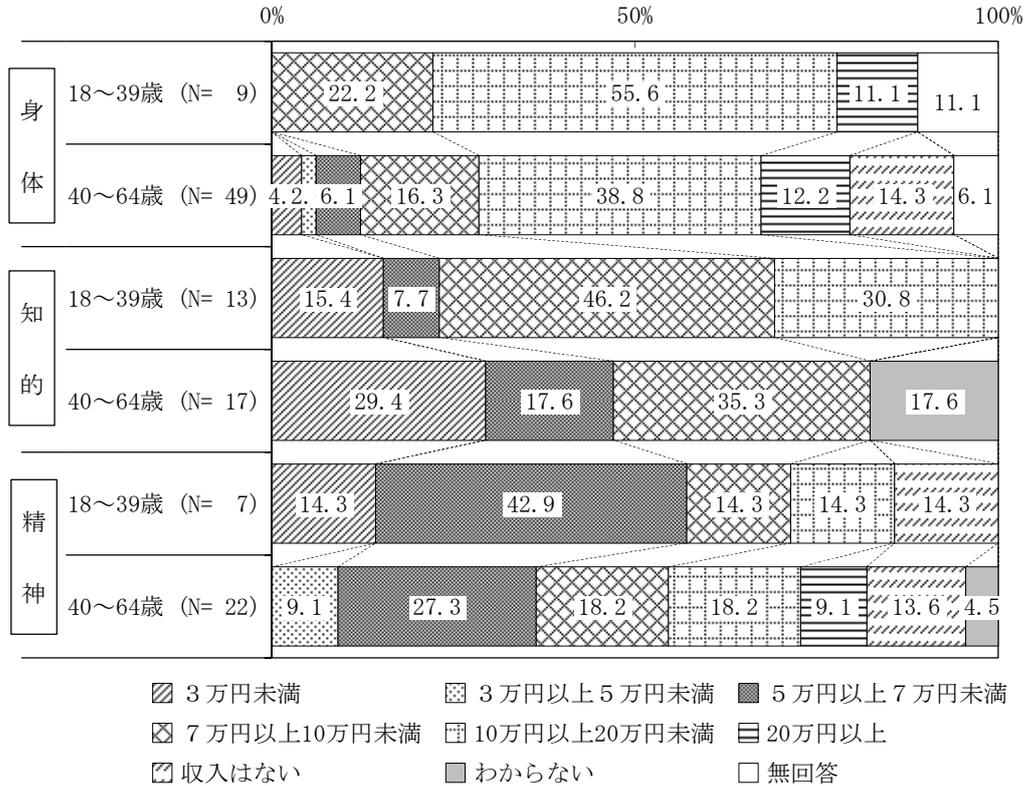
単位：Nは人、他は%

区分		N	給与・賃金	通所施設などの作業所の工賃	障害年金	障害年金以外の年金	家賃・地代・預金の利息などの財産収入	その他	収入はない	無回答	
身体障がい	性別	男性	34	50.0	8.8	41.2	8.8	-	5.9	14.7	-
		女性	24	29.2	8.3	50.0	12.5	4.2	-	12.5	4.2
	年齢別	18～39歳	9	66.7	11.1	44.4	-	-	-	-	-
		40～64歳	49	36.7	8.2	44.9	12.2	2.0	4.1	16.3	2.0
知的障がい	性別	男性	22	31.8	36.4	72.7	-	-	-	-	-
		女性	8	25.0	62.5	62.5	12.5	-	-	-	-
	年齢別	18～39歳	13	53.8	23.1	46.2	7.7	-	-	-	-
		40～64歳	17	11.8	58.8	88.2	-	-	-	-	-
精神障がい	性別	男性	17	17.6	5.9	70.6	5.9	-	5.9	11.8	-
		女性	12	8.3	-	66.7	16.7	8.3	8.3	16.7	-
	年齢別	18～39歳	7	-	14.3	85.7	-	-	-	14.3	-
		40～64歳	22	18.2	-	63.6	13.6	4.5	9.1	13.6	-

(2) 1か月の総収入

最も収入が少ないのは40～64歳の知的障がい者です。身体障がい者と知的障がい者では、18～39歳未満の年齢層に較べて、40～65歳未満の収入が少なかったが、精神障がい者においては反対の傾向がみられます。

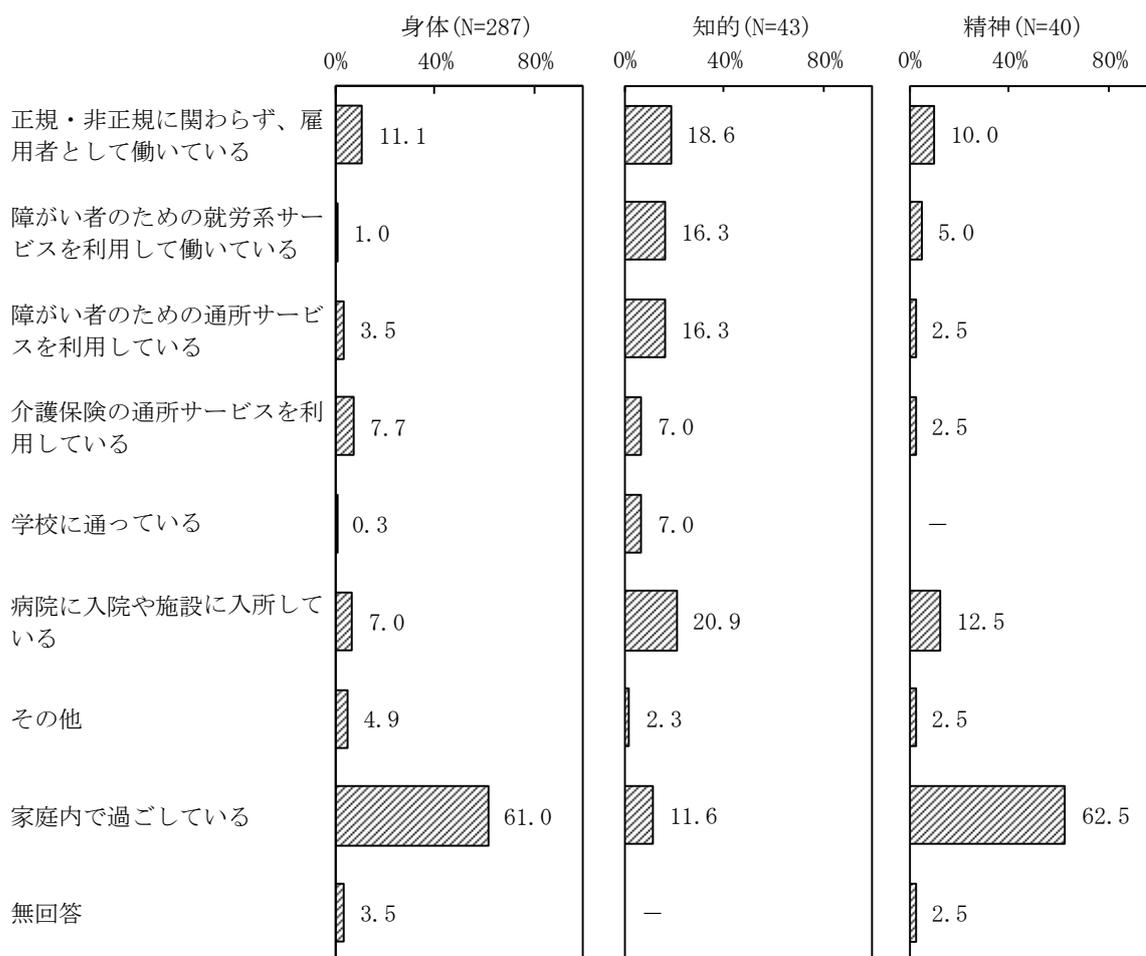
図表4-2 1か月の総収入（障害・年齢別）



### (3) 現在の日中の過ごし方

精神障がい者・身体障がい者は、知的障がい者と比較して「家庭内で過ごしている」者が明らかに多いです。知的障がい者は「病院に入院や施設に入所している」が20.9%と最も高く、「正規・非正規に関わらず、雇用者として働いている」「障がい者のための就労系サービスを利用して働いている」「障がい者のための通所サービスを利用して働いている」も他の障がい者に比べて高いです。

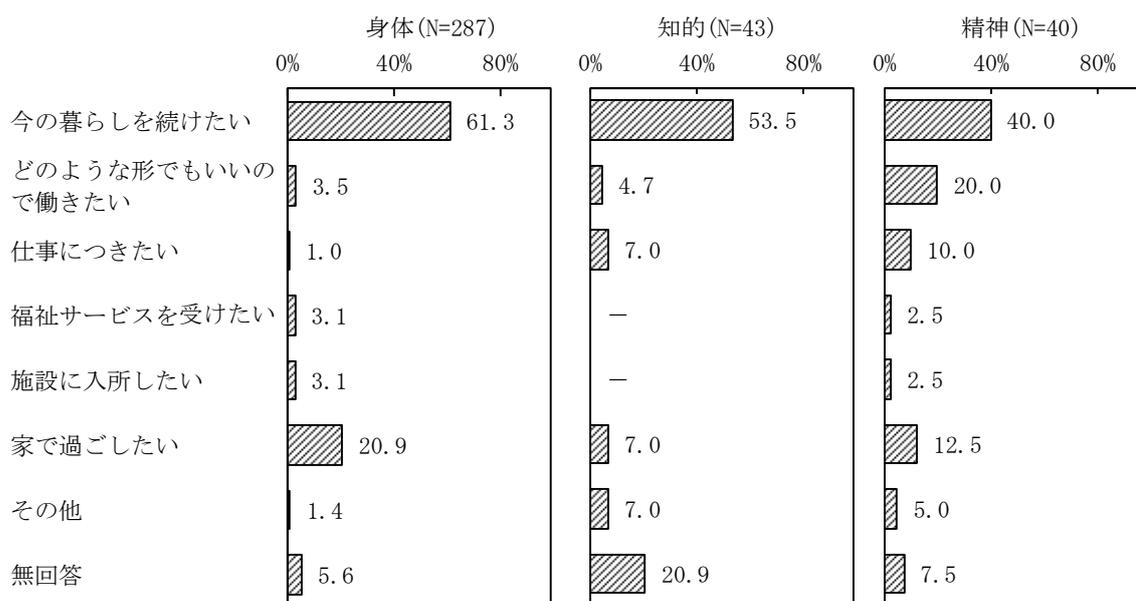
図表4-3 現在の日中の過ごし方



### (4) 今後の日中の過ごし方

いずれの障がい者も「今の暮らしを続けたい」が最も高くなっているが、精神障がい者は「今の暮らしを続けたい」と回答した者の割合が身体障がい者・知的障がい者に比べて低くなっています。「仕事につきたい」「どのような形でもいいので働きたい」という就労への希望を示した精神障がい者の割合は、身体障がい者と知的障がい者に比べて高くなっています。

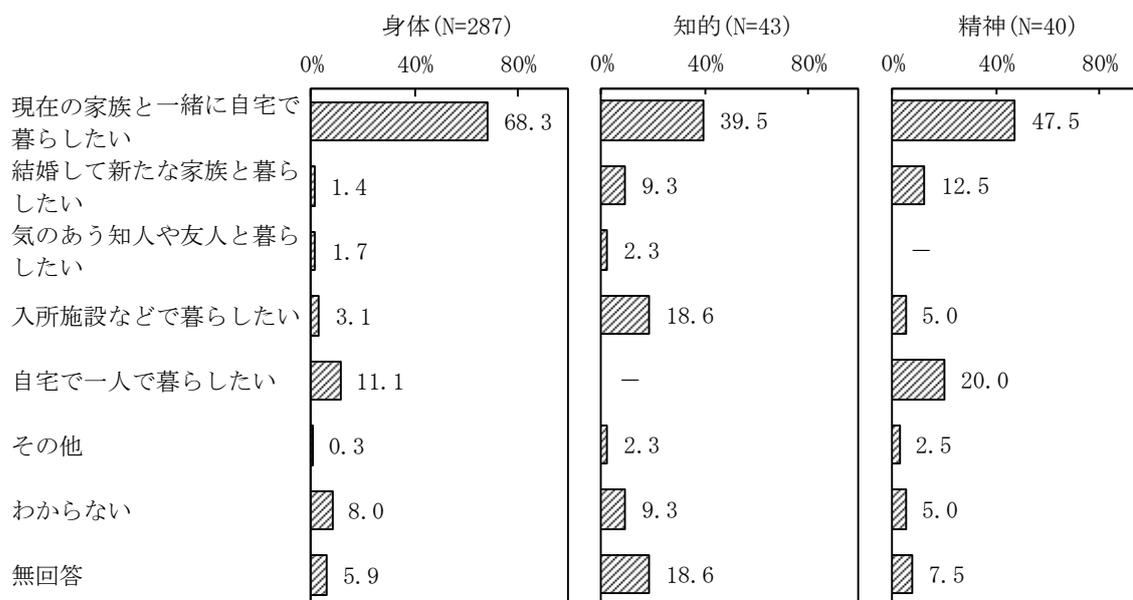
図表4-4 今後の日中の過ごし方



## (5) 今後どのような暮らしをしたいか

今後の暮らしについては、いずれの障がい者も「現在の家族と一緒に自宅で暮らしたい」が最も高くなっています。知的障がい者の「入所施設などで暮らしたい」(18.6%)、精神障がい者の「自宅で一人で暮らしたい」(20.0%)が比較的高くなっています。

図表4-5 今後どのような暮らしをしたいか



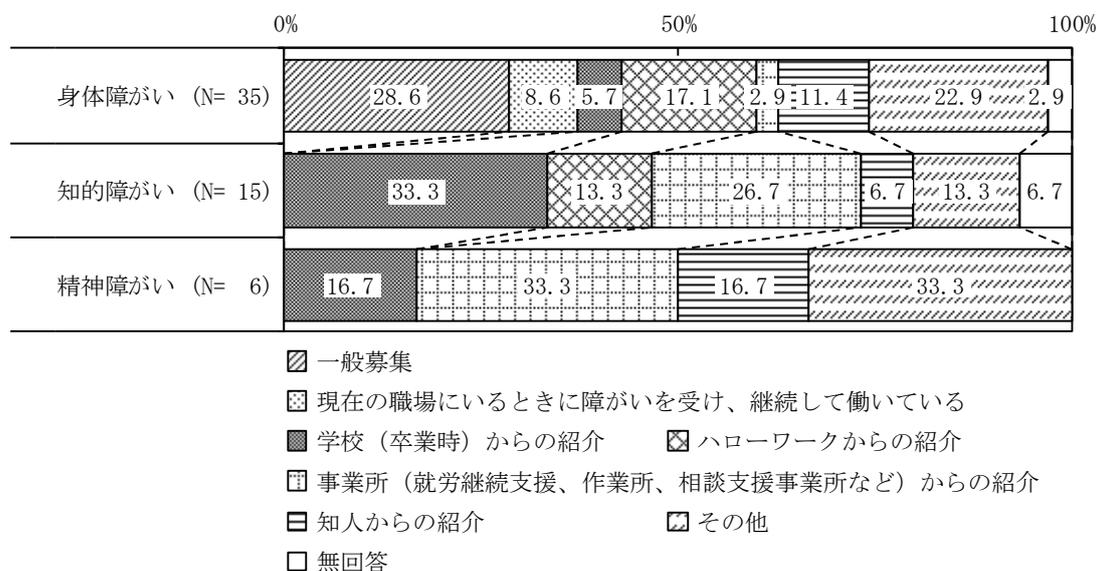
## (6) 現在の仕事をどのようにしてみつけたか

現在働いている人に、現在の仕事をどのようにして見つけたかをたずねたところ、身体障がい者は「一般募集」が28.6%、「ハローワーク」が17.1%となっています。

知的障がい者は「学校（卒業時）の紹介」が33.3%、「事業所（就労継続支援、作業所、相談支援事業所など）からの紹介」が26.7%となっています。

精神障がい者は「事業所（就労継続支援、作業所、相談支援事業所など）からの紹介」が33.3%となっています。

図表4-6 現在の仕事をどのようにしてみつけたか

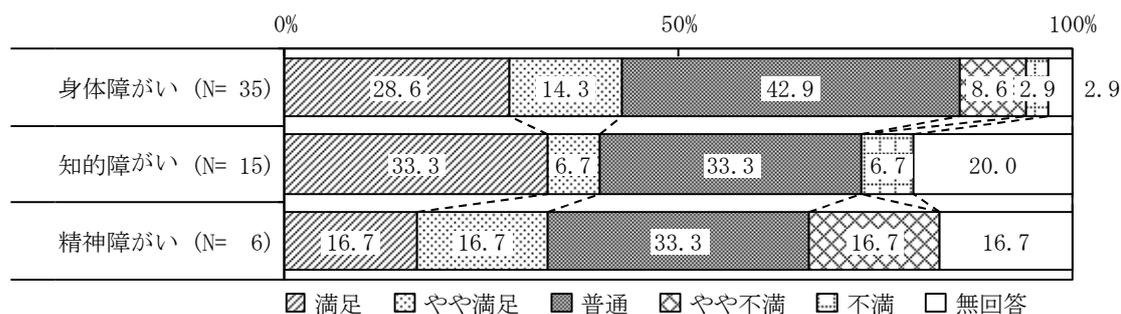


## (7) 現在の仕事や職場の満足度

### ① 仕事の内容

仕事の内容について、「満足」「やや満足」を合計した＜満足＞は、身体障がい者が42.9%、知的障がい者が40.0%、精神障がい者が33.4%です。「やや不満」「不満」を合計した＜不満＞は、身体障がい者が11.5%、知的障がい者が6.7%、精神障がい者が16.7%となっています。

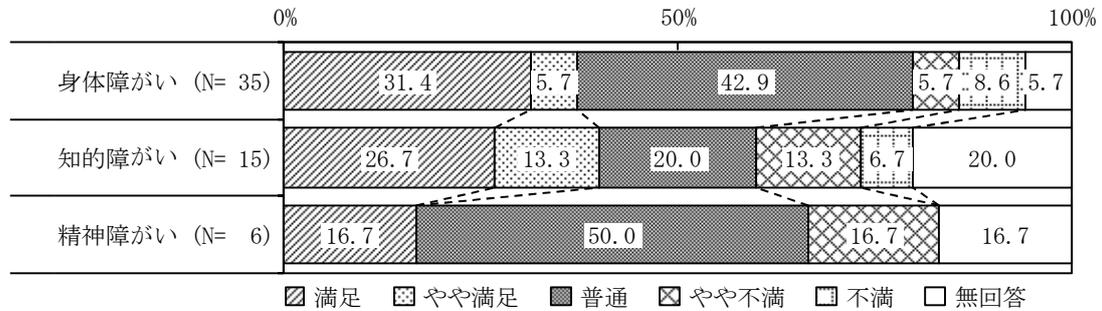
図表4-7 仕事の内容の満足度



② 職場の環境の満足度

設備や人間関係などの職場の環境について、＜満足＞と答えた人は、身体障がい者が37.1%、知的障がい者が40.0%、精神障がい者が16.7%です。＜不満＞は、身体障がい者が14.3%、知的障がい者が20.0%、精神障がい者が16.7%となっています。

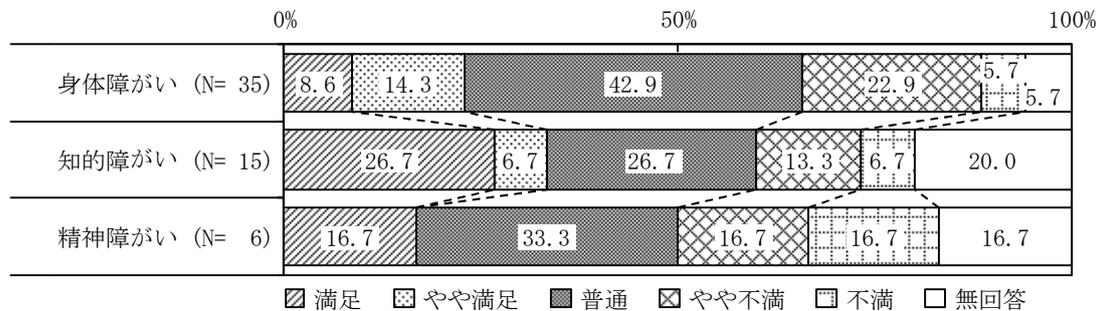
図表4-8 職場の環境の満足度



③ 就労による収入の満足度

就労による収入について、＜満足＞と答えた人は、身体障がい者が22.9%、知的障がい者が33.4%、精神障がい者が16.7%です。＜不満＞は、身体障がい者が28.6%、知的障がい者が20.0%、精神障がい者が33.4%となっています。

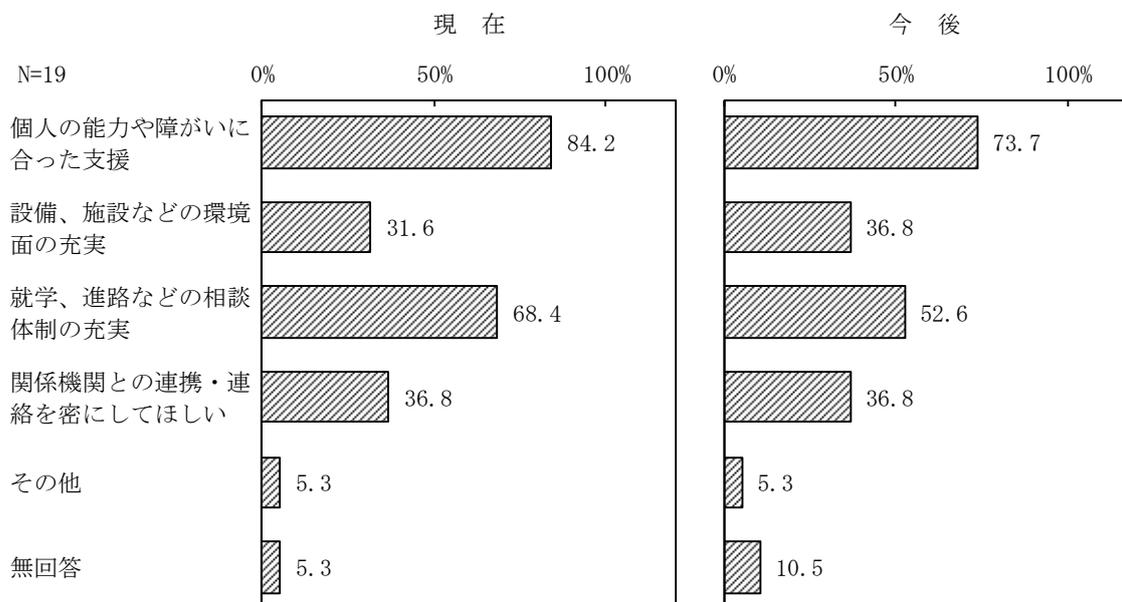
図表4-9 就労による収入の満足度



## (8) 学校生活に期待すること（障がい児）

学校生活に期待することの現在と今後についてたずねました。どちらも「個人の能力や障がいに合った支援」が最も高く、2番目に「就学、進路などの相談体制の充実」が高くなっています。

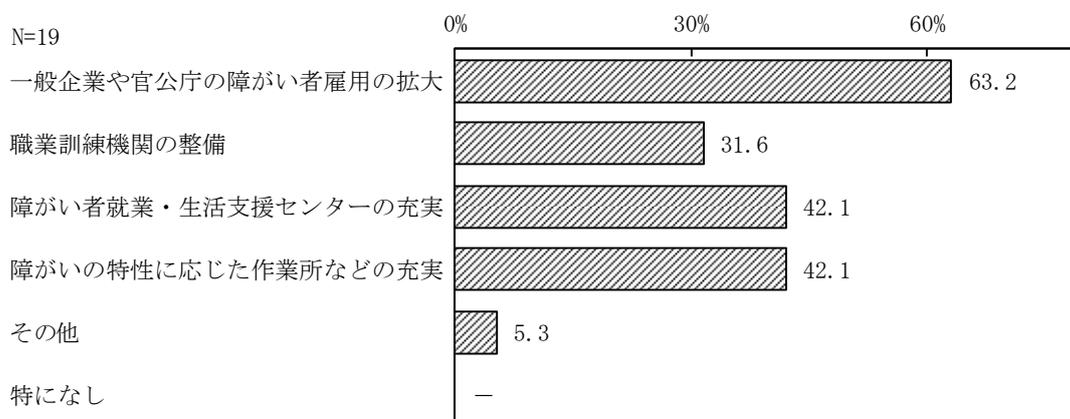
図表4-10 学校生活に期待すること（複数回答）



## (9) 進路支援に望むこと（障がい児）

学校教育終了後の進路支援に関し、どのような福祉施策を望むかをたずねたところ、「一般企業や官公庁の障がい者雇用の拡大」が最も高くなっています。

図表4-11 学校教育終了後の進路支援に望むこと（複数回答）

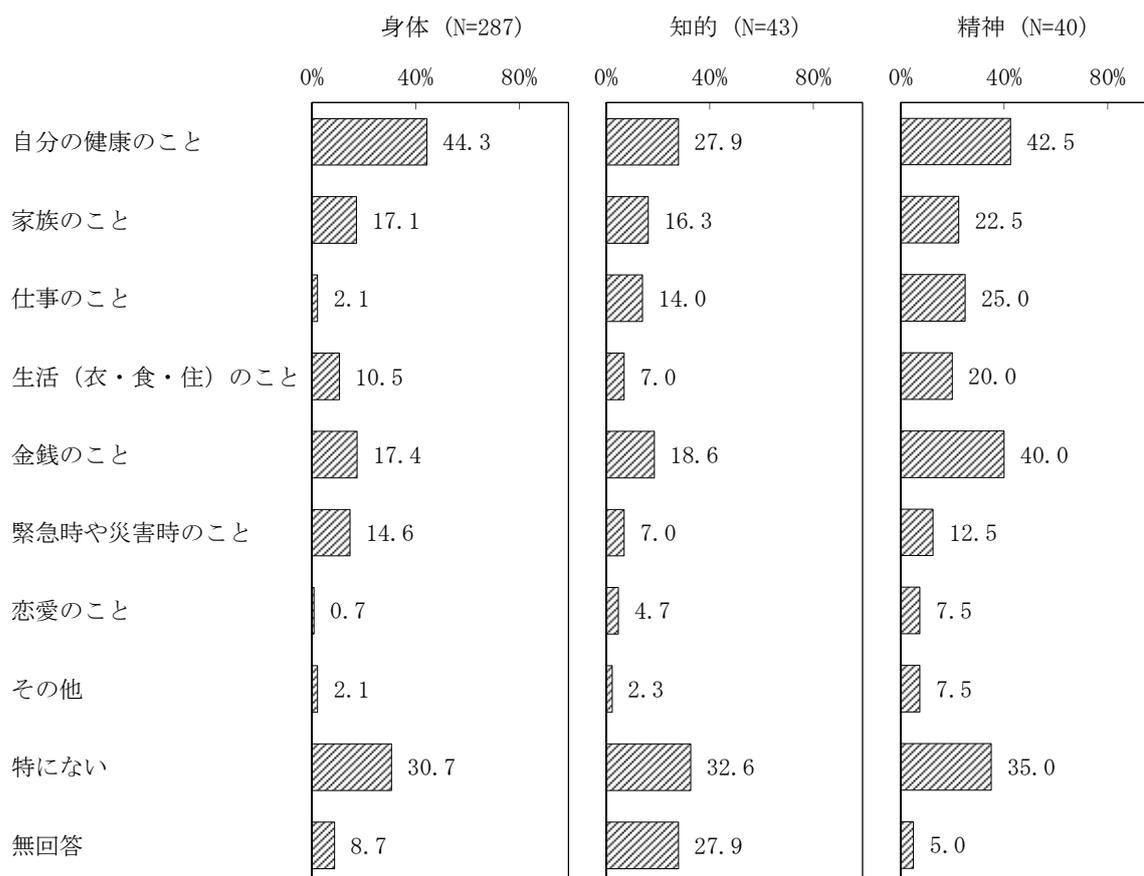


## (10) 悩んでいることや相談したいこと

現在悩んでいることや相談したいことについては、いずれの障がい者も「自分の健康のこと」が最も高く、2番目に「金銭のこと」が高くなっています。

一般的に精神障がい者の割合が高く、合計すると177.5%となります。特に「金銭のこと」は40.0%と高くなっています。

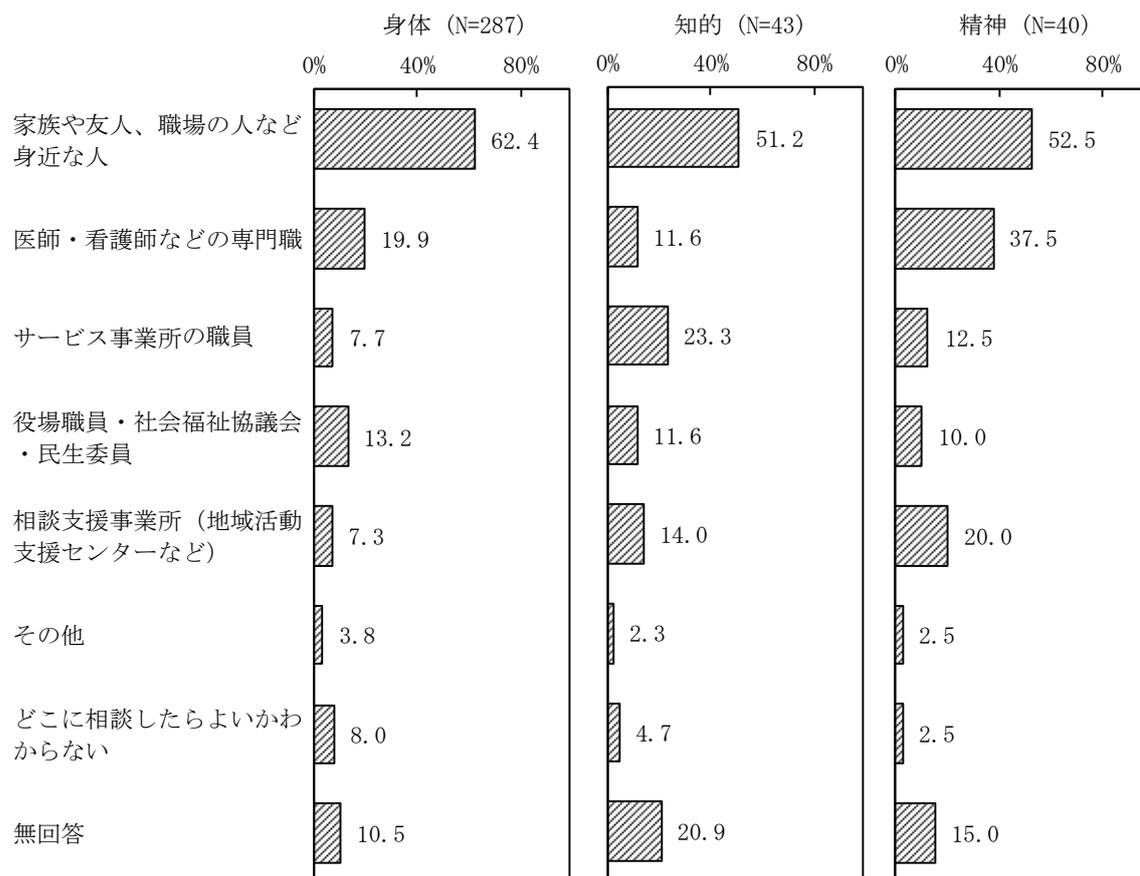
図表4-12 悩んでいることや相談したいこと（複数回答）



## (11) 相談相手

悩んだときや困ったときの相談相手は、いずれの障がい者も「家族や友人、職場の人など身近な人」が最も高くなっています。2番目に高いのは、身体障がい者、精神障がい者は「医師・看護師などの専門職」、知的障がい者は「サービス事業所の職員」となっています。

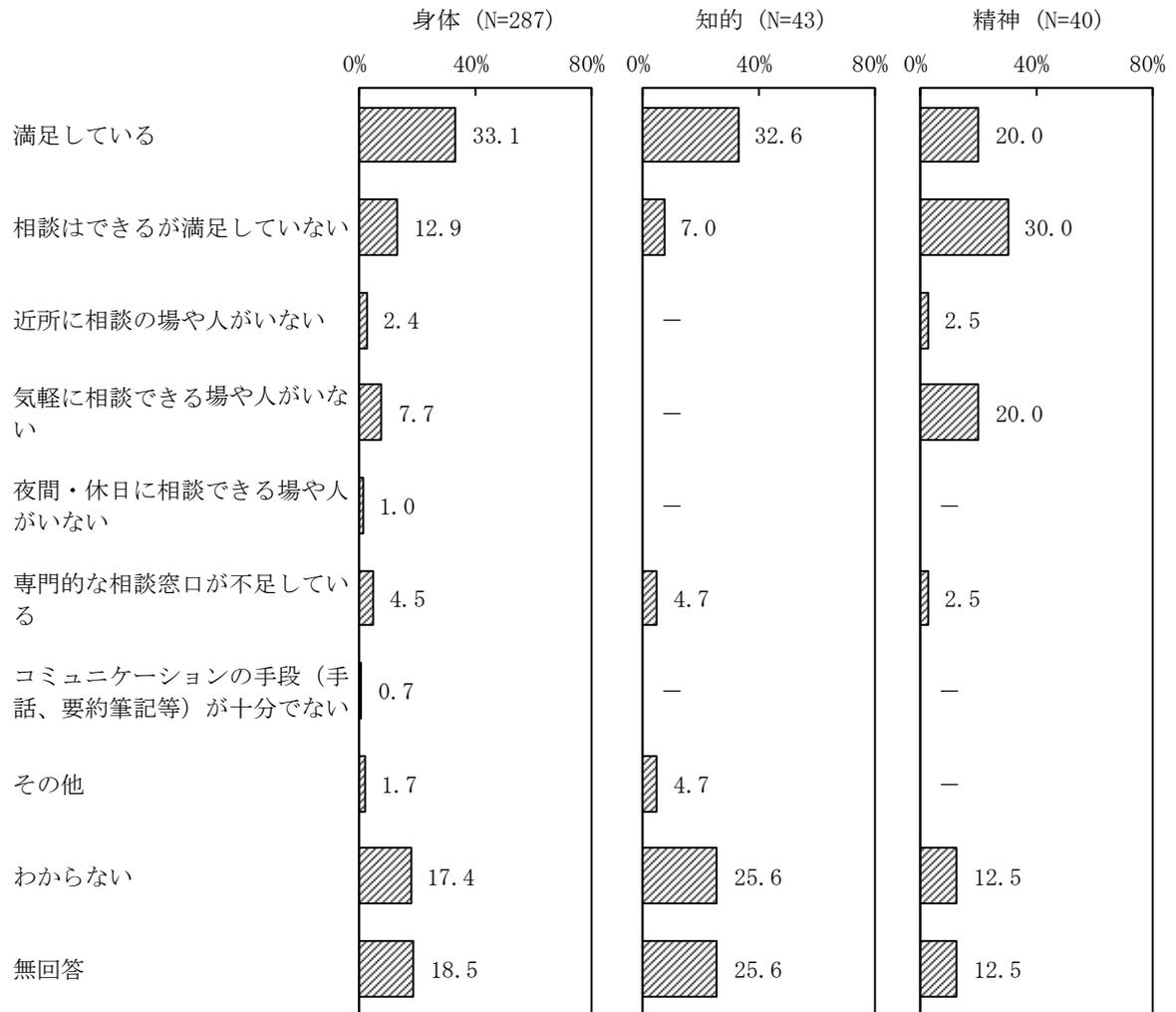
図表4-13 相談相手（複数回答）



(12) 相談体制について

悩んだときや困った時の相談体制については、身体障がい者および知的障がい者は「満足している」が30%以上と最も高くなっています。精神障がい者は「相談はできるが満足していない」が30.0%と最も高く、「気軽に相談できる場や人がいない」も他の障がい者に比べて高くなっています。

図表4-14 相談体制について（複数回答）

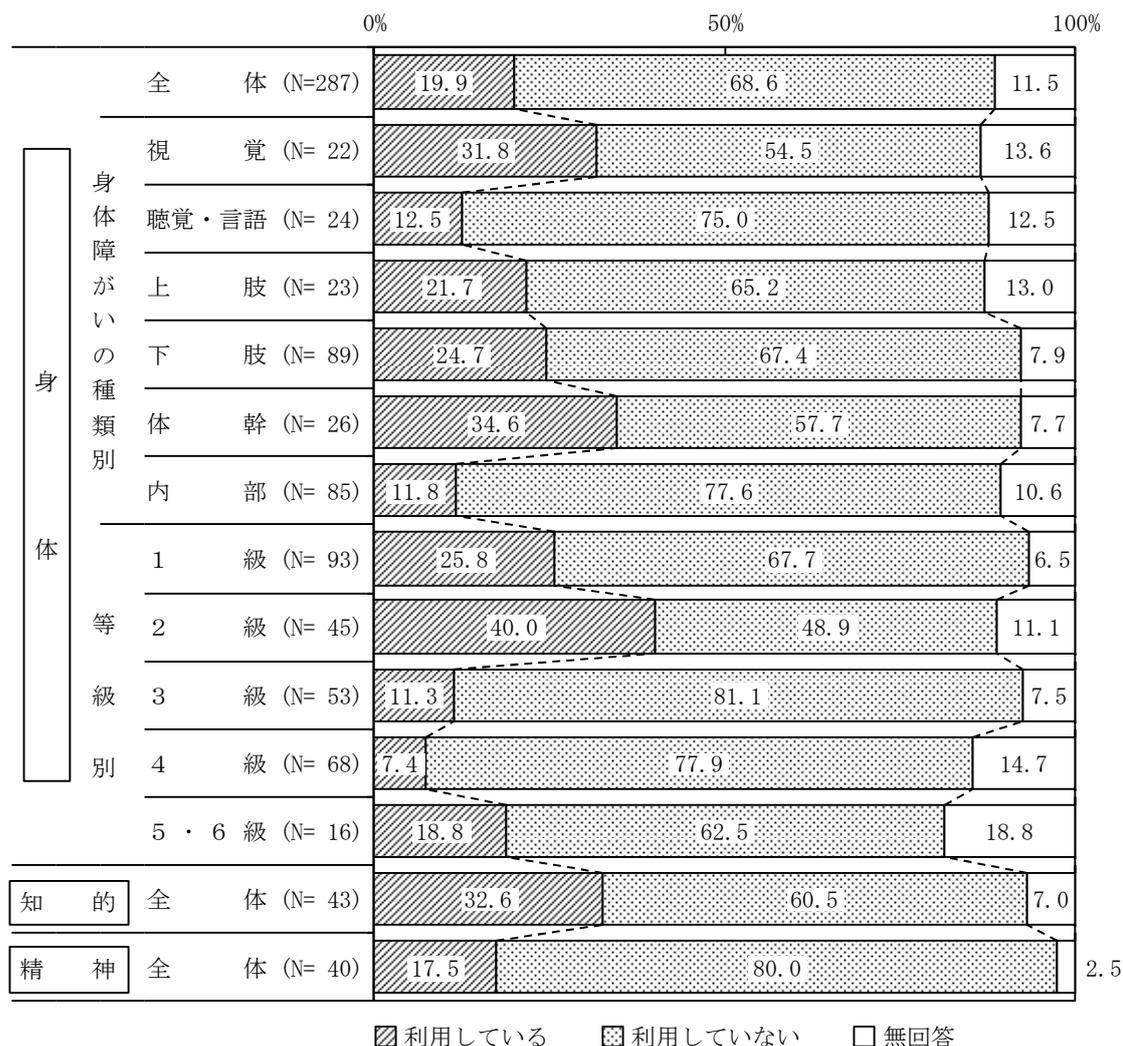


### (13) 福祉サービスの利用状況

障害福祉サービス、地域生活支援事業など、障がい者のための福祉サービスを利用している人は、身体障がい者が19.9%、知的障がい者が32.6%、精神障がい者が17.5%と、知的障がい者の利用割合が高くなっています。

身体障がいの種類別にみると、視覚障がい、体幹障がい30%以上と高く、等級別では2級が40.0%と高くなっています。

図表4-15 福祉サービスの利用状況

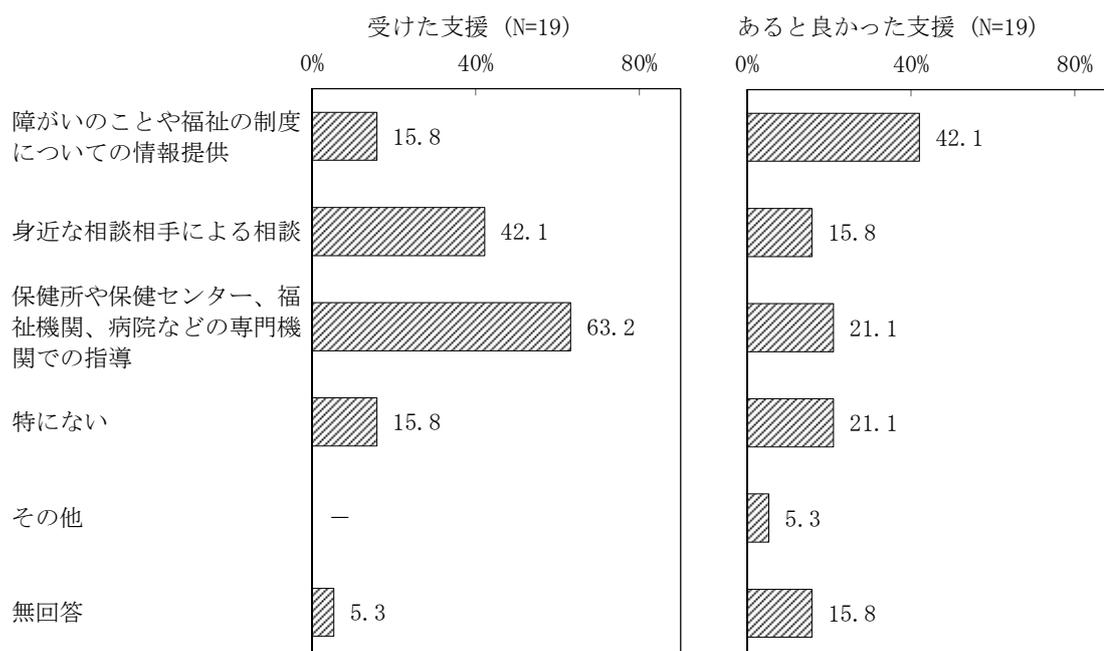


## (14) 障がいの診断時に受けた支援とあると良かった支援（障がい児）

障がい児に、障がいの診断・判定を受けた頃に受けた支援についてたずねたところ、「保健所や保健センター、福祉機関、病院などの専門機関での指導」が63.2%（12人）と最も高く、次いで「身近な相談相手による相談」が42.1%（8人）となっています。

あると良かった支援については、「障がいのことや福祉の制度についての情報提供」が42.1%（8人）と最も高くなっています。

図表4-16 障がいの診断時に受けた支援とあると良かった支援（複数回答）

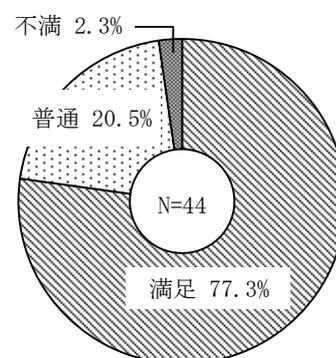


## (15) 親子教室、放課後等デイサービス利用者の内容の満足度

親子教室、放課後等デイサービスを利用している児童（障がい者手帳は所持していない）の保護者を対象に、親子教室、放課後等デイサービスの内容の満足度をたずねたところ、「満足」が77.3%、「普通」が20.5%、「不満」が2.3%となっています。

なお、「不満」と答えた人に不満な点をたずねたところ、「通所の人数が増えたため、通える回数が減ってしまった」が記載されていました。

図表4-17 親子教室、放課後等デイサービスの内容の満足度



(16) 充実・改善してほしいサービス（障がい児）

障がい児に、充実・改善してほしいサービスをたずねたところ、「放課後等デイサービス」が10人と多く、「児童発達支援」「障がい児施設」も8人と多くなっています。

充実・改善してほしいこととしては、全般的に「希望する日時に利用できるようにしてほしい」「近くに事業所がほしい」が多くなっています。

図表4-18 今後、充実・改善してほしいサービス（複数回答、回答者のみ）

単位：人

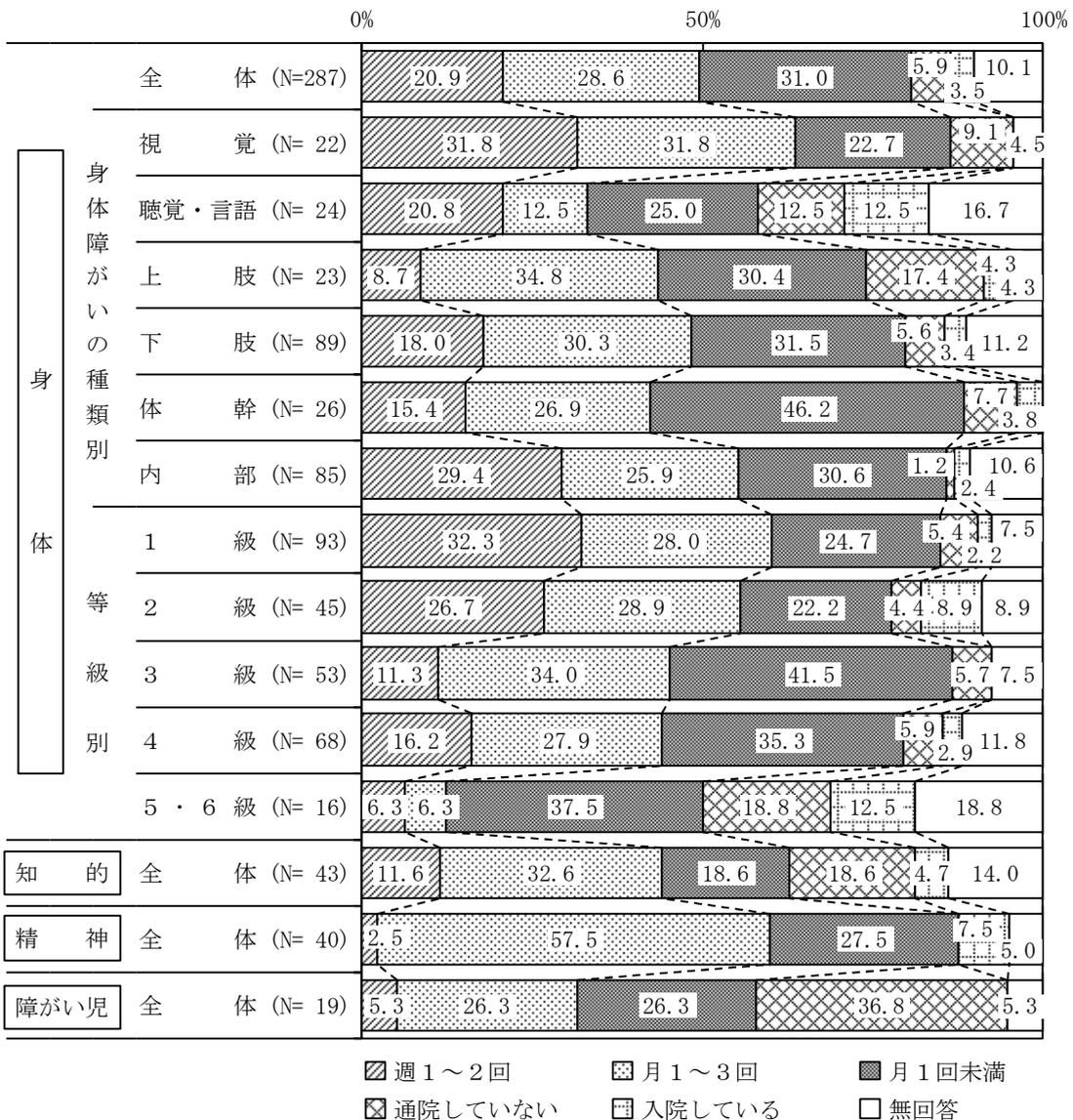
区 分	N	希望する日時に利用できるようにしてほしい	サービス量（日数・時間）を増やしてほしい	近くに事業所がほしい	事業所の数を増やしてほしい	利用者負担を少なくしてほしい	職員の対応を良くしてほしい	その他
居宅介護	5	3	-	1	-	1	-	-
行動援護	5	3	-	1	-	1	-	-
同行援護	4	2	-	1	-	1	-	-
重度障害者等包括支援	4	2	-	1	1	1	-	-
短期入所	4	1	1	3	1	-	-	-
共同生活援助	4	1	2	3	1	-	-	-
補装具	6	-	-	1	1	2	-	2
移動支援	2	1	-	1	-	-	-	-
地域活動支援センター	5	2	-	4	-	-	-	-
日中一時支援事業	5	2	2	3	1	1	-	-
相談支援事業	4	2	1	1	-	-	-	-
意思疎通支援	2	1	-	1	-	-	-	-
日常生活用具給付等事業	2	-	-	1	-	1	-	-
訪問入浴	3	1	1	3	1	-	-	-
児童発達支援	8	3	3	3	1	-	-	-
放課後等デイサービス	10	6	2	4	1	1	-	-
障がい児施設	8	2	1	3	2	1	-	-

(17) 通院の頻度

通院についてたずねたところ、「週1～2回」「月2～3回」「月1回未満」を合計したく通院している>は、身体障がい者が80.5%、知的障がい者が62.8%、精神障がい者が87.5%、障がい児が57.9%となっています。

通院の頻度については、身体障がい者は「月1回未満」が最も高く、知的障がい者、精神障がい者は「月1～3回」が最も高くなっています。障がい児は、「月1～3回」と「月1回未満」が26.3%で並んでいます。

図表4-19 通院の頻度



(注) 1 往診も1回としてカウント。  
 2 障がい児には「入院している」という選択肢はない。

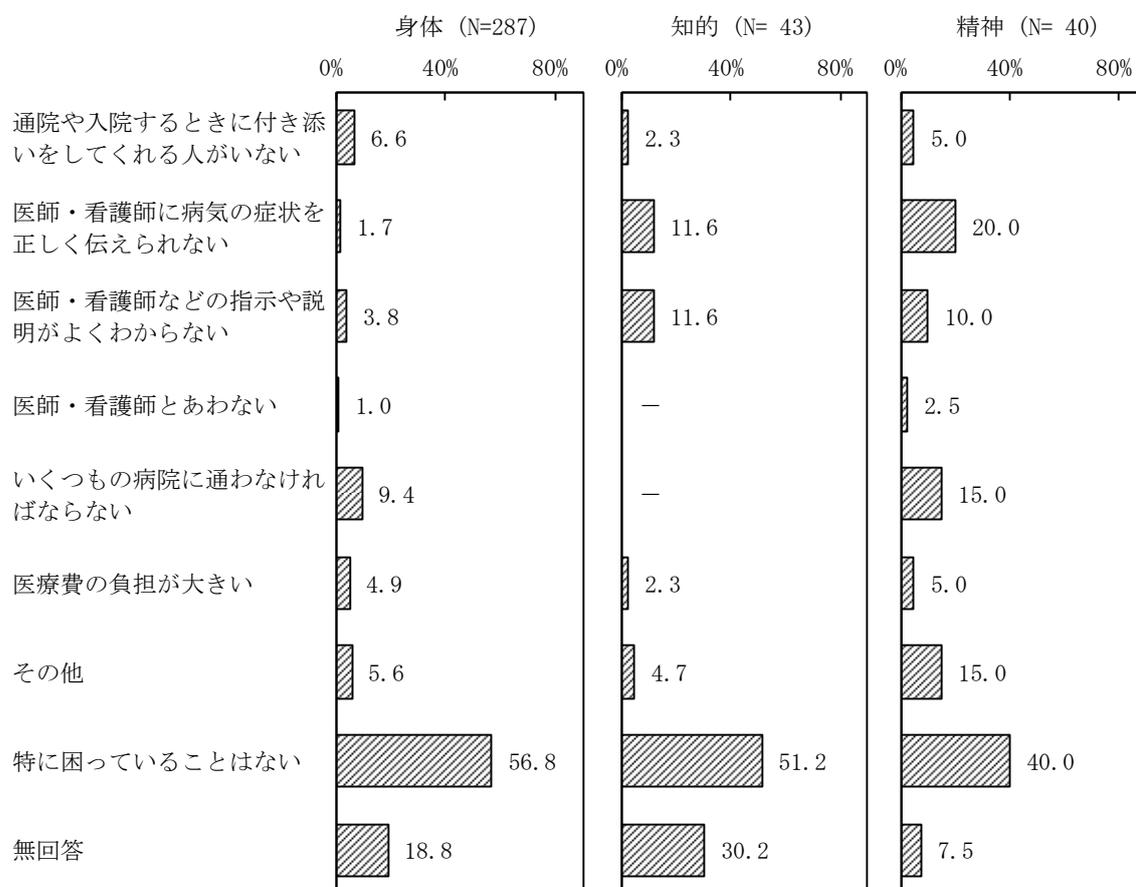
## (18) 医療を受ける上で困っていること

医療を受ける上で困っていることとして、身体障がい者は全般的に割合が低く、最も高い「いくつもの病院に通わなければならない」が9.4%です。

知的障がい者は、「医師・看護師に病気の症状を正しく伝えられない」「医師・看護師などの指示や説明がよくわからない」が11.6%で並んでいます。

精神障がい者は、「医師・看護師に病気の症状を正しく伝えられない」が20.0%と最も高く、次いで「いくつもの病院に通わなければならない」が15.0%となっています。

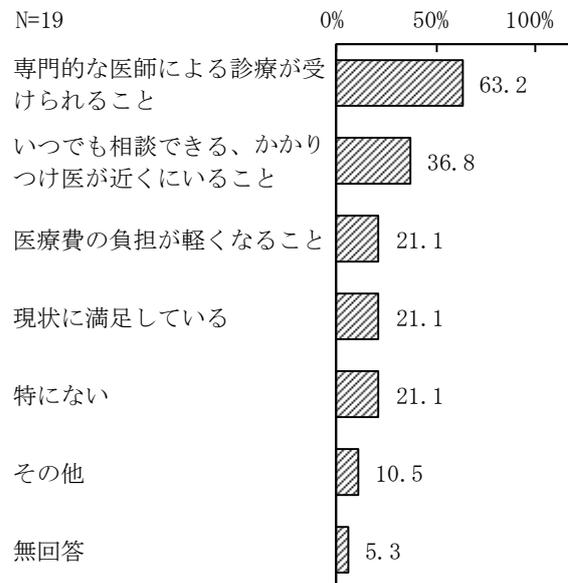
図表4-20 医療を受ける上で困っていること（複数回答）



## (19) 医療に望むこと（障がい児）

障がい児に、医療に望むことをたずねたところ、「専門的な医師による診療が受けられること」が63.2%（12人）と最も高く、次いで「いつでも相談できる、かかりつけ医が近くにいること」が36.8%（7人）となっています。

図表4-21 医療に望むこと



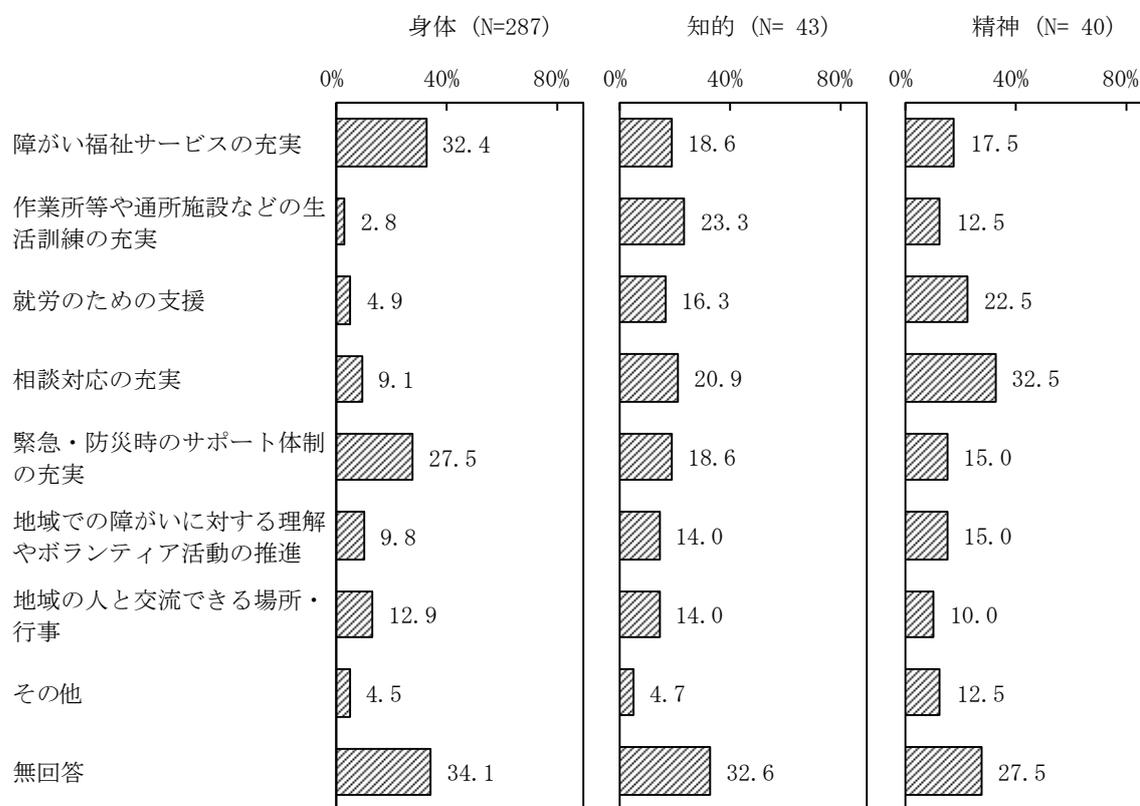
## (20) 地域で生活する上で必要なこと

地域で生活する上で必要なこととしては、身体障がい者は「障害福祉サービスの充実」が32.4%と最も高く、次いで「緊急・防災時のサポート体制の充実」が27.5%となっています。

知的障がい者は「作業所等や通所施設などの生活訓練の充実」が23.3%と最も高く、次いで「相談対応の充実」が20.9%となっています。

精神障がい者は「相談対応の充実」が32.5%と最も高く、次いで「就労のための支援」が22.5%となっています。

図表4-22 地域で生活する上で必要なこと（複数回答）

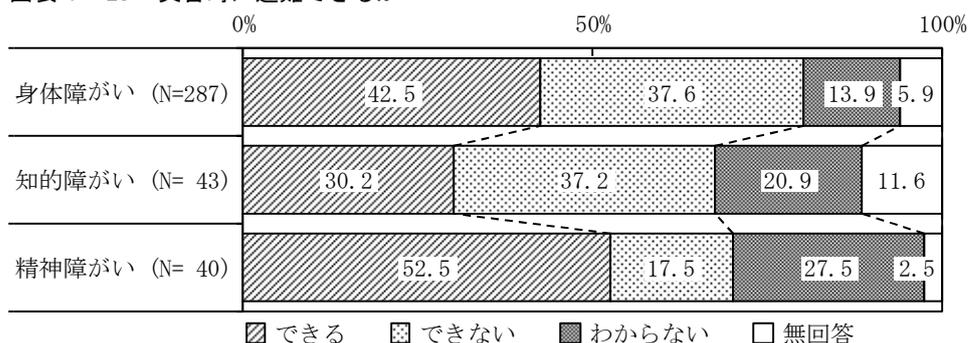


(21) 災害時に避難できるか

地震などの災害発生時に一人で避難できるかをたずねたところ、「できる」は、身体障がい者が42.5%、知的障がい者が30.2%、精神障がい者が52.5%となっています。

「できない」は、身体障がい者が37.6%、知的障がい者が37.2%、精神障がい者が17.5%となっています。知的障がい者は「できない」が「できる」より高くなっています。

図表4-23 災害時に避難できるか



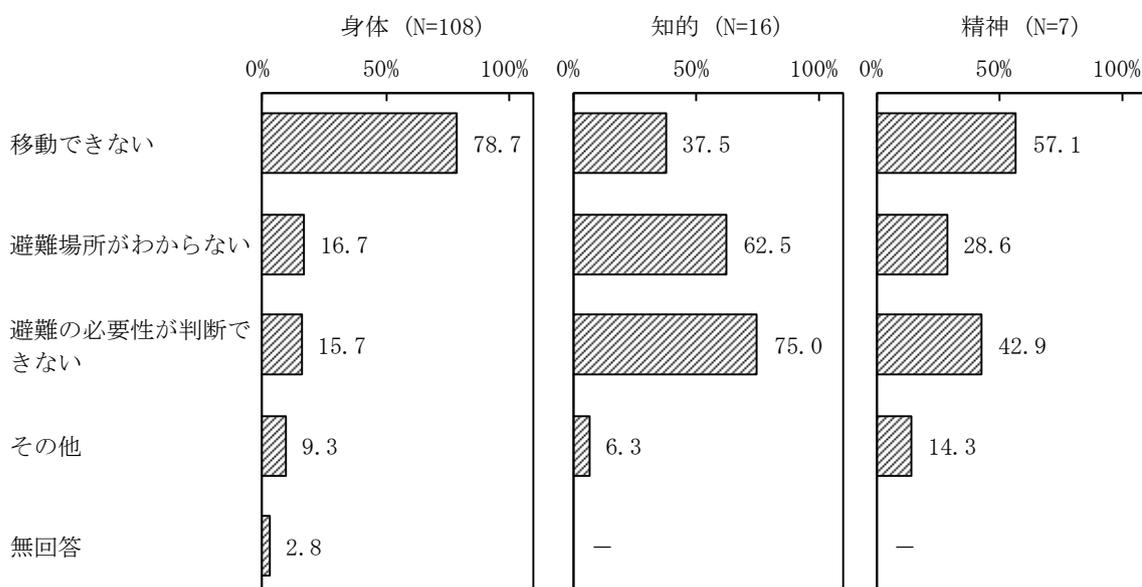
(22) 避難時に困ること

災害発生時に一人で避難することが「できない」と答えた人に、避難時に困ることをたずねたところ、身体障がい者は「移動できない」が78.7%と高くなっています。

知的障がい者は「避難の必要性が判断できない」が75.0%と最も高く、「避難場所がわからない」(62.5%)も高くなっています。

精神障がい者は「移動できない」が57.1%と最も高く、「避難の必要性が判断できない」(42.9%)も比較的高くなっています。

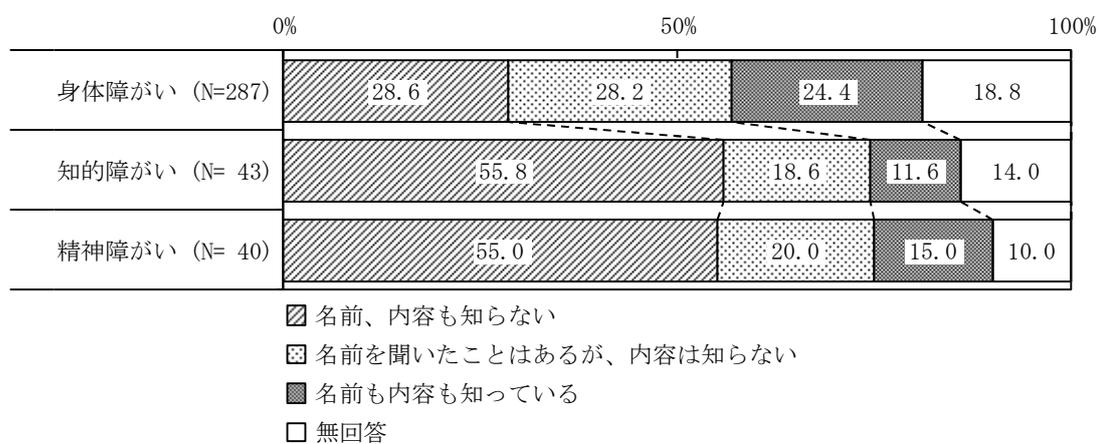
図表4-24 避難時に困ること (複数回答)



### (23) 成年後見制度の認知度

障がいなどの理由により判断能力が十分でない人の財産などの権利を守る成年後見制度について、「名前、内容も知らない」と答えた人は、身体障がい者が28.6%、知的障がい者が55.8%、精神障がい者が55.0%となっています。また、「名前も内容も知っている」は、身体障がい者が24.4%、知的障がい者が11.6%、精神障がい者が15.0%となっており、身体障がい者に比べて、知的障がい者、精神障がい者の認知度が低くなっています。

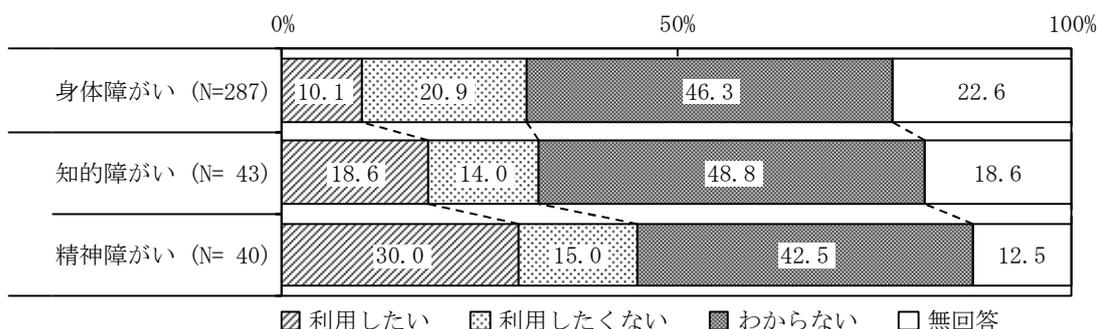
図表 4-25 成年後見制度の認知度



### (24) 成年後見制度の利用意向

成年後見制度を「利用したい」と答えた人は、身体障がい者が10.1%、知的障がい者が18.6%、精神障がい者が30.0%と、精神障がい者の利用意向が高くなっています。

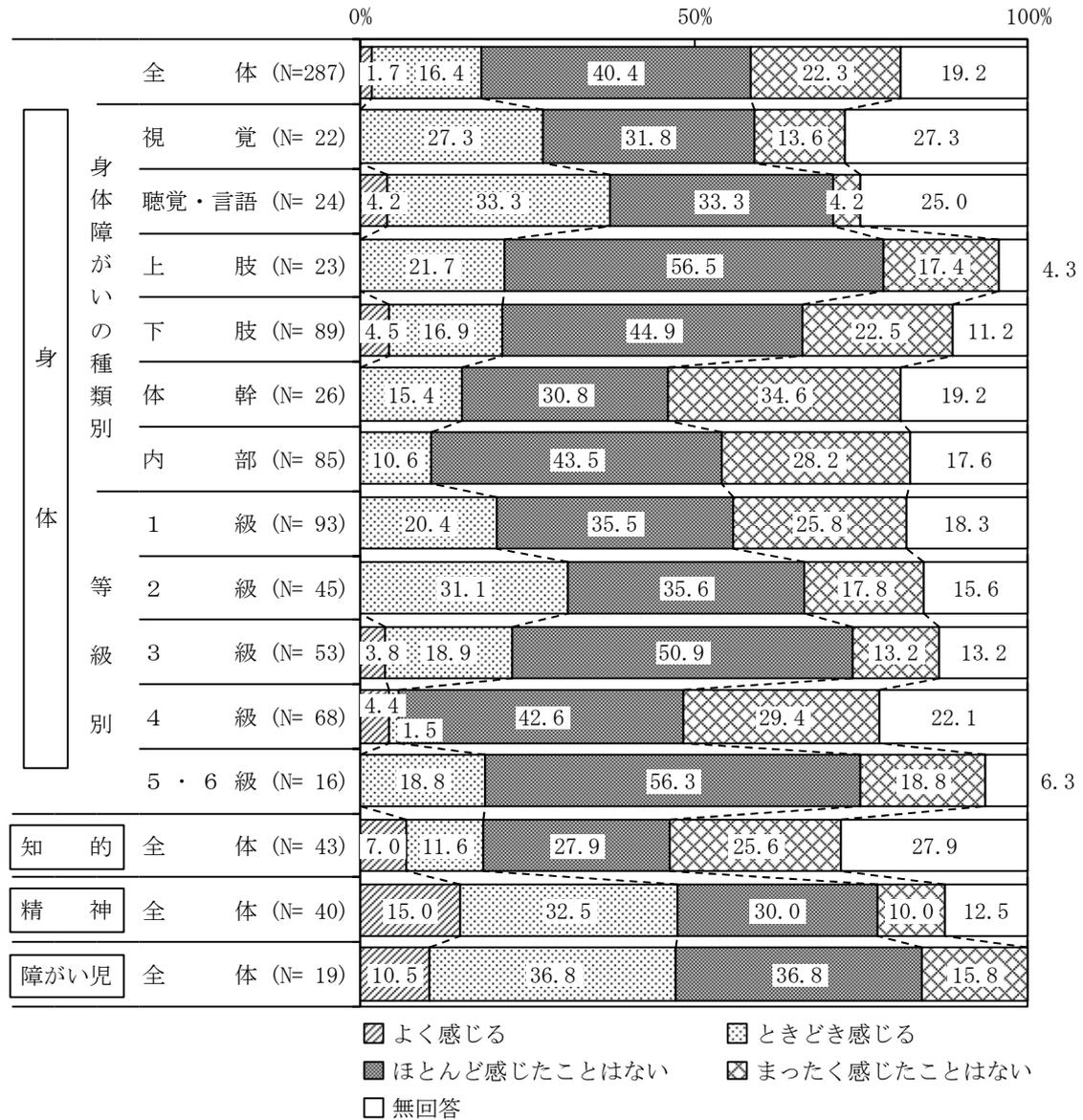
図表 4-26 成年後見制度の利用意向



(25) 差別や偏見・疎外感を感じることもあるか

「日常生活において、差別や偏見・疎外感を感じることはありませんか」という設問に対して、「よく感じる」「ときどき感じる」と答えた割合は、身体障がい者が18.1%、知的障がい者が18.6%、精神障がい者が47.5%、障がい児が47.3%となっています。精神障がい者と障がい児の半数近くが差別や偏見・疎外感を感じています。

図表4-27 差別や偏見・疎外感を感じることもあるか

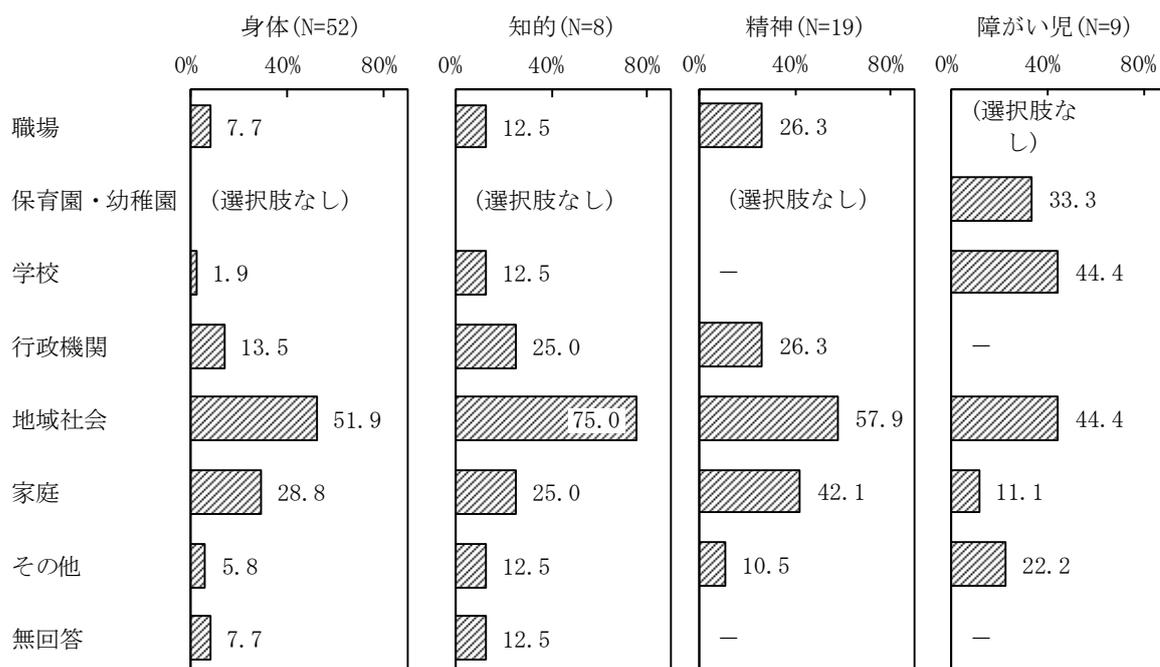


## (26) 差別や偏見・疎外感を感じた場面

差別や偏見・疎外感を「よく感じる」「ときどき感じる」と答えた人に、それはどのような場面であったかをたずねたところ、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者は「地域社会」が最も高くなっています。次いで高いのが、身体障がい者、精神障がい者は「家庭」、知的障がい者は「家庭」と並んで「行政機関」となっています。

障がい児は「地域社会」「学校」が高くなっています。

図表4-28 差別や偏見・疎外感を感じた場面（複数回答）



(27) 充実しているものと今後必要なもの

八百津町において、障がいのある人にとって特に充実しているものと今後必要なものについてたずねたところ、充実しているものより今後必要なものが20ポイント以上高いのは、身体障がい者、障がい児の「障がい者が暮らしやすい地域環境整備の充実（道路・建物等）」、知的障がい者、精神障がい者、障がい児の「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」、精神障がい者の「福祉に関する情報提供」、知的障がい者、障がい児の「専門的な医療やリハビリなどの充実」、身体障がい者、知的障がい者、障がい児の「災害時の安否確認、避難方法の周知」、知的障がい者、精神障がい者の「障がいや病気の特性への理解」です。

図表4-29 充実しているものと今後必要なもの（複数回答）

